

# Tokai Fubokon Letter

## 第42回東海父母懇総会



5月14日(日)母の日に、第42回東海中高父母懇談会の総会が行われました。当日はあいにくの雨でしたが、総勢650名の父母・教員・生徒の皆さんにお集まりいただき、大盛況の会となりました。午前中から夕方まで盛りだくさんの内容で行われましたが、どの企画も大盛況で、学内は終日人で溢れていました。



午前中、4年ぶりにコロナ前の形で行われた食堂企画では、各地域(尾北・北)やサークル(アイデアール・かんげき・テイスト)、そして2022年度卒業事務局から、模擬店(コーヒーやパン、和菓子、おこわ、抹茶などの販売)や日用品バザーが出店され、食堂内は大勢の父母で終始賑わっていました。また、多くの卒業生から提供していただいた制服・体操服のリサイクルは、開始前から行列ができるほどの盛況ぶりでした。

総会では、籠谷優先生と父母の戸谷奈里さん(高3)によって司会進行されました。父母および教員代表の挨拶のあと、東海OBでもある日比野久さん(私学助成をすすめる会会長)に挨拶をいただきました。

議事は、議長の鈴木健司先生と父母の安藤阿礼さん(高2)によって滞りなく進みました。そして、東海中高父母懇談会の新父母代表の武田恵里子さん(高2)をはじめとする、今年度の30名の事務局員が選出されました。

また、その他の議案(2022年度総括、会計報告、新年度方針案、新年度予算案)についても、参加者の拍手によりすべて承認されました。



総会議事のあとは、父母懇談会サークルである女声合唱団「アイデアール」によるステージ(「花の

首飾り」「思い出がいっぱい」「Think of Me」が披露され、続いてオーケストラ部の演奏(ブラームス作曲交響曲第1番 第1楽章)が披露されました。このステージと演奏は、華やかさと厳かさが感じられ、満員となった講堂の観客は静かに曲に聞き入り、終了後には大きな拍手が会場に鳴り響きました。

続く教員紹介では、佐藤校長が登壇し、母の日に寄せて、さり気ないユーモアを込めた挨拶をされ、会場は



和やかな雰囲気になりました。その後、ステージ前に稲森中学教頭、井上高校教頭を含む33名の教員が一行に整列し、宮川先生におひとりおひとりをフルネームでご紹介していただきました。父母と教員が向かい合って支え合う父母懇の理念そのままの光景が現出しました。

## 伊藤真氏講演 深く考え、深く伝える～ いま問い直す「学び」と「憲法」～



記念講演は、伊藤塾塾長で弁護士の伊藤真氏による「深く考え、深く伝える」でした。伊藤真さんは憲法に対する考え方を軸に社会問題や平和について多方面で講演していて、今回は父母向けに中

高生の子どもたちに考える力の重要さも語っていただきました。現在のウクライナ情勢や戦争プロパガンダに触れつつ、「誰もが政治や憲法に無関心ではいられても、無関係ではいられない」と語り、無関心でいるうちにファシズムに陥った歴史的経緯や現在日本にみられるファシズム初期の兆候について指摘されました。政府が現在進めようとしている敵基地攻撃能力にも触れながら、戦争の悲惨さや戦争に突き進まないようにするために冷静さをもち、戦争になったときの状況を想像する力を駆使することの重要性が語られました。

また、多数意見を尊重する民主主義において、多数意見が常に正しいわけではなく、



多数意見でも奪えない価値を守るために成文化したものが憲法で、国家が法律を制限する法律と異なり、憲法は国民が国家権力を制限するもので国民の人権を守るものであること、憲法は国家権力だけでなく多数派も制限することで少数派や弱者を守る役割があることも指摘されました。多数派や強者であることを気がつきにくい状況で、想像力(イマジネーション)や他者への共感が少数派や弱者を理解するために重要であると語られました。そのうえで、伊藤真氏が憲法で一番大切だと考える「個人の尊重」を切り口に、想像力と共感力によって、多様性を認め合い、他

者への配慮や寛容も可能になるのではないかと述べられました。「憲法」というだけで硬くなってしまいがちな話が、丁寧な論理展開と分かりやすい例え、そして軽妙な語り口により、憲法がより身近になり、そして憲法をより深く知る機会となりました。

将来の平和社会を担う子どもたちに何が必要かも折に触れ語られ、父母のみなさんも講演の充実さにとても満足していました。



### 【参加者の感想】

●今日の伊藤さんの講演会はとっても楽しかったです。たくさんのお話を聞いていても、どんどん興味がわき、あっという間の90分でした。子どもたちにも、この話を聞かせてあげたいなあと、他のお母様方とお話をしていました。とても良い機会をいただき、ありがとうございました。

●伊藤真先生のお話が、とても心に刺さりました。特に真のエリートとは、のところで、我が子がいつか気がついてほしいと思いました。

●伊藤先生の講義は大変勉強になりました。いつも楽しい企画ありがとうございます。地域懇もたのしみしています。

●講演会の内容がとても良く、子ども達にも聞かせてあげたかったと思いました。準備等ありがとうございます。

●活動内容がわかり参加できてよかったです。講演に関しまして、とても素晴らしい内容でしたが、途中から長椅子で座面と背中が痛すぎてとても辛かったです。周りに座られていた方も辛そうでした。座布団など持参くださいなどの一文があると、良いのでは無いかと思いました。

●伊藤真先生のご講演がとても素晴らしかった。ありがとうございました。

たくさんのご意見ご感想をお寄せいただきまして、ありがとうございました！



## 会場が満席になった中1・高1分散会

講演後には、中1・高1の分散会が行われました。どちらの分散会にも100名以上の父母が参加し、会場は満席の状態でした。



中1分散会はスタディホールにて紺野先生の司会のもと進行され、平下先生、小國先生、鈴木和先生、渡辺先生らが参加し、卒業生の柴田裕馬さんは、自分の記念祭への関わり方を紹介し、活躍・成長の場があったことを語ってくれました。また、山口颯太さんは、親があたたく見守ってくれて、のびのびと学園生活を送れたことを学園生活の写真をスライドで映しながら話をしてくださいました。一方、視聴覚室で行われた高1分散会は北村先生の司会のもと進行され、村上先生、黒川先生、園山先生、桑原先生らが参加しました。卒業生の中村亮太さんは、文化祭などで友人と触れあい、そんな友人とのつながりが受験期にも支えになったことを語り、田枝真人さんは、高校生フェスティバル実行委員会に参加し、学校の垣根を越えて活動する中で、自分の視野が広がったと話してくれました。どちらの会場も熱心に話に耳を傾ける父母の姿が印象的で、分散会終了後も卒業生や教員に質問する方が多く見られました。



は、親があたたく見守ってくれて、のびのびと学園生活を送れたことを学園生活の写真をスライドで映しながら話をしてくださいました。一方、視聴覚室で行われた高1分散会は北村先生の司会のもと進行され、村上先生、黒川先生、園山先生、桑原先生らが参加しました。卒業生の中村亮太さんは、文化祭などで友人と触れあい、そんな友人とのつながりが受験期にも支えになったことを語り、田枝真人さんは、高校生フェスティバル実行委員会に参加し、学校の垣根を越えて活動する中で、自分の視野が広がったと話してくれました。どちらの会場も熱心に話に耳を傾ける父母の姿が印象的で、分散会終了後も卒業生や教員に質問する方が多く見られました。

## 制服リサイクルバザー

皆さまのご厚意により、たくさんの制服、体操服等が集まりましたこと心から感謝しております。おかげ様で、今年度も再び使ってくださいの沢山の方の元へと橋渡しをさせていただくことができました。バザーで集まりました 66,165 円を1億円募金へと全額寄付させていただいております。

制服等をご寄付していただいた皆さま、ご購入してくださった皆さま、本当にありがとうございました。



## お抹茶と阿闍梨餅販売

卒業父母による企画の一つとして、今回初めてお抹茶と阿闍梨餅の販売を行いました。200個用意してあった阿闍梨餅はお陰様で完売し、お抹茶は升半さんの物を使用致しましたが、香りがとても良いと大変評判でした。



ご来場頂いた皆様にとって、ホッと一息つける場となっていたのであれば幸いです。ありがとうございました。

### 編集後記

No.38は、第42回総会特集号です。総会では、記念講演あり、教師・卒業生による分散会あり、制服リサイクルバザーから抹茶甘味処まで目白押し。当日参加できなかった私も、素晴らしい総会であったことを、編集作業を通じて感じることができました。

東海父母懇は、本総会後も様々な企画を準備しており、本紙においても詳細あまねく発信して参ります。

今年も、みなさまのご参加ご協力により東海父母懇がいつそう盛り上がることを願ってやみません。

来年の第43回総会でもぜひお会いしましょう。